

地域密着型サービス自己評価票

- 。 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 。 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日
事業所名
事業所番号
記入者名
連絡先電話番号

平成 20年 8月 5日
グループホーム円頓寺
2370400976
職名 管理者 氏名 澤海直人
052 - 583 - 7515

(様式1)

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人生楽しく自分らしく」という理念のもと、地域住民の一員として、馴染みの関係が出来ている。		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット会議などで周知をはかり、理念の共有、実践に努めている。		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には来設された際などに、地域の人々には地域運営推進会議を通じて周知を図っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出掛けて、ご近所の方と挨拶を交わしたりされている。商店街に立地しているということもあり、関係が作りやすい。		
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の保育園・小学校の運動会や焼いも大会、地域のお祭りなどの行事に積極的に参加している。地域運営推進会議で情報を収集して、婦人会の方々と共に公園のゴミ拾いなどを行ったりもしている。	○	今年から商店街の七夕まつりの名物である張りぼて人形作りを行うことになり、入居者、スタッフ一丸となって製作に取り組んだ。今後も継続していけるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が研修などを受けて利用者への支援に生かすことは出来ているが、地域の方へ還元するまでには至っていない。	○	地域運営推進会議などを通じて、地域の方々に向けて、認知症の勉強会、相談会などを行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ありのままを評価していただくことにより、課題を明確にする。ユニット会議などでそれを共有し、改善に向けて話し合う。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	ホームの状況の報告、意見の収集の他に、地域を良くする為に皆で何が出来るかを話し合っている。利用者も会議に参加して、地域の為に何が出来るのかを考えている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所に出向き、話しをする機会を設けている。どんなに些細なことでも、相談してアドバイスを受けるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護事業を利用してみえる利用者があり、事業者と接する機会も多い為、管理者や職員は学ぶ機会が多い。対応が必要な利用者に対しては支援出来る体制が整っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し、高齢者虐待防止法に関して学ぶ機会を設けている。	○	管理者が職員に対して、虐待に繋がるストレスなどをうまく発散出来るように配慮していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアに対する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者や家族の不安、疑問点に誠実に対応することで安心して頂いている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から出た意見、不満などはケアに反映出来るようにしている。思いを言葉に表すことの出来ない利用者に対しては、日々接する中で思いを汲み取り、記録に残して、ユニット会議などで話し合うようにしている。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が来設された際に、利用者の暮らしぶりや健康状態について報告したり、金銭管理ノートを見ていただいたりしている。また、月ごとに預かり金の出納帳と領収証をお渡ししている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見を言い易いような雰囲気作りに努めている。意見や不満、苦情があった場合はユニット会議などですぐに検討し、早めに解決出来るようにしている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話の中で出てくる意見や提案も出来る限り運営者まで届くようにしている。ユニット会議では職員が意見を言い易い場となるよう努力している。	○	ユニット会議は職員が言いたいことを全て吐き出せるような場にしていく。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。つい最近も利用者の要望に対し、より柔軟に対応できるよう、勤務時間帯の変更を行った。	○	人材不足の為に、柔軟な対応がままならない場合があるので、早急に人材の確保をしなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関しては必要最小限に抑えるようにしている。運営者、管理者ともに職員の離職を防ぐ為のスキルを身につける為、研修に積極的に参加している。代わる場合は職員間で話し合い、利用者へのダメージを抑えることが出来るよう配慮している。		
5.人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、新人研修をはじめ、法人内外の様々な研修を受ける機会を設けている。参加者は研修報告を提出することが義務付けられており、参加しなかった職員にも内容が分かるようになっている。また、月に一度近隣のグループホームが集まってコンソーシアムという勉強会を開いている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会への加入、西区グループホームコンソーシアムへの参加などを通じて、ネットワーク作りや勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者が現場に近く、公私共に相談に乗ってくれる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己評価などの評価方法を模索し、職員個々の努力や実績、勤務状況が給料面などに反映されるような環境が出来るよう努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活を把握するよう努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようとしている。いつでも話せるような雰囲気をもし出すようにしている。	
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯をゆっくりと聞き、次の段階の相談に繋げている。出来る限り穏やかに対応して安心して頂く。	
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては区の介護福祉課などを案内している。ご本人とご家族が今何を望んでいるのかを親身になってじっくりと聞く。	
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず、すぐ入居となった場合はご家族やそれまで関わった方に来て頂いて安心して頂く。それまでの生活習慣を大きく変える事無く過ごして頂く。	
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、利用者に教えていただく場面が多い。相談、悩み事、こんなことがあった等、お互いに話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの共有に努めようとしている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに伝えて、来訪時はご本人とご家族の間を取り持つように努めている。時にはお茶とお菓子を食べながら、他愛もない話しをして、時を過ごしている。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪時には、部屋でゆっくりして頂いたり、時には外食して頂いている。ご家族とデパートやお祭り、法要等へ行かれることもある。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が黒子となってそれとなくフォローしたり、個別に話を聞いたり、相談に乗ったりすることにより、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。		
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	別の施設に移られた方が遊びに来ることが多く、その際は昔と同じように親しくさせていただいている。培ったなじみの関係を壊さないようにしている。また、こちらから利用者と一緒にその方の所へ訪問することもある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の希望・意向が言葉で語ることが出来る方は、傾聴し記録に残しています。希望を伺い早めの対応を心がけています。	○	自分の希望・意向を言葉に出さず、行動でさりげなく示している方に対しては、スタッフが気付くようにし、記録に残す。言葉には出さない思いを察してスタッフが共有していきます。
34 ○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状態を今までの資料、ご家族・支援者の方から集め、ICFでまとめています。入所前の生活と今の生活の差を見極め、本人の望む暮らしに近づけるよう心がけています。	○	以前していた好きなこと、興味を引き出し、今現在もそれがしてみたいと希望が出たら出来るように手助けします。
35 ○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の様子を記録に残し、いつもと違うことがあれば、「何がそうさせたか」をスタッフ間で話し合い、対応しています。	○	日中、2Fリビングにずっと座ってみえる方が多いです。今後はその人に寄り添い「その人らしさ」を一つずつ見つけ、実現させていきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず、「本人の望む暮らし」をチームで共有します。その実現の為、家族、チームと「どのようにしたら希望がかなうのか」と話し合いの場を設けています。その結果をもとにケア計画を立てます。	○	月2回のケアカンファレンスにおいて、スタッフがどのように入居者の方と寄り添っているかを話し、ケアの視点を共有のものとしていきます。ご家族とも気軽に話が出来る環境を作っていきます。
37 ○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題が生じた場合、管理者が家族と連絡をとり、ご家族の意向を伺います。本人の希望、ご家族の意向が一致するように計画を共に考え、計画を見直しています。(リスクマネジメントの活用)	○	ご本人の状態に変化が生じた場合は、まず対応が優先され、計画はあとになりがちですが、ご本人、ご家族の意向・希望は早めに伺うようにしていきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア計画に対してどのようにしたら出来たか、どのようにしたら出来なかったかに重点を置いています。結果よりもその経過に視点を置くように取り組んでいます。	○	記録は実際に行動記録が多いですが、今後は本人の思い・希望も記録に残すようにします。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今現在実施出来ていない。	○	今後は本人やご家族のその時々々の要望や状況に対応出来るように、まずはご家族との関係を密にし、寄り添うことから始めます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校の運動会参加、地域運営推進委員会の参加により、地域の活動の情報を収集し、参加する。(婦人会主催の公園のゴミ掃除、七夕まつりの飾りの出展参加)	○	地域の子供たちの交流・共存。(朝の登校時の「おはよう」の声かけ)
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の方に他のサービスの依頼もなく、他のサービスの方との交流もないのが現状です。	○	入居者の方が関わることによってプラスとなる他のサービス(インフォーマルな支援も含む)があるか探していきます。
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護センターを利用してみえる方もいます。支援員の方が月に一度ホームに面接にみえています。地域包括支援センターとの連携はとれていないです。	○	地域包括支援センターの職員の方と交流を持ち、一度入居者の方と気軽に話しが出来る機会を設けたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は月一回の定期受診ですが、自分の体の状態を把握するため、二週間に一度にして、先生からの助言をいただいている入居者の方もみえます。	○	かかりつけ医が24時間対応ではありません。将来的にはいつでも連絡が取れるようにしていきます。
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は認知症専門医ではないが、入居者一人一人の話をきちんと聞き、対応して下さっている。	○	認知による周辺症状で問題になっていることは現在はない。今後起こりうることを想定し、家族、スタッフが気軽に相談が出来る専門機関を探していきたい。
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム看護師とはいつでも連絡がとれる状態にあり、何かがあったら相談しています。ちょっと気になることがあれば伝え、様子を見ていただいています。	○	ホームと提携している薬局の薬剤師の方とも、本人、ご家族も気軽に相談出来る関係を築いていきたいと思います。
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院、治療、方針等、本人とご家族が安心出来るようインフォームドコンセントを大切にしています。	○	時間をかけて話しが出来る医療機関を探していきたいです。(ケアワーカーとの連携が取れるように)
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームはターミナルケアを目指しているが、まだ準備段階です。	○	ご本人、ご家族の終末期の希望を元気な今の段階で話し合っていきたいと思います。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に対するケアの思いをスタッフから意見を持ち合って、ターミナル期のケアに対する心構えから取り組んでいます。	○	スタッフにターミナルケアの経験をしているものが少なく、スタッフ自身の精神的課題を解決していきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の介護度の向上に伴い、住み替えとなっています。本人の望む暮らしを伺い、それがかなう新しい住まいを共に探しています。移転後も時折ホームに遊びにみえる方もいます。	○	住み替え後の本人の暮らしが、どのようになるかの想定を共にすることにより、自分の思いが現実でより近いものとなるようにしていきます。(ダメージの最小化を目指す)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけているが、最近は職員の入れ替わりが続いたこともあり、徹底が出来ていない。	○	新人研修の際にきちんと理解してもらえるよう徹底する。また、職員それぞれが気を付けて、もし利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応が見られたら、すぐに注意をするようにする。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が決めたことを押し付けるようなことはせず、利用者一人一人に合わせた説明をして、その人らしく、自己決定が出来るように支援している。	○	思いや希望を言葉に出来ない利用者、「何でもいいよ」と言われる利用者が、うまく自己決定出来るような支援の仕方を考えていく。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側がその日の利用者のスケジュールを決めることは殆ど無く、買い物や散歩など、利用者一人一人の状態や思いに配慮しながら出来る限り柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に服装などは利用者本人の意向で自由に決めて頂いている。希望される入居者には女性職員が化粧をして差し上げたりもしている。理美容院では希望に合わせたカットをしてもらえるように連携を取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は利用者と相談しながら決定している。利用者が広告をみて安い食材などをチェックして下さることも。調理や盛り付け、後片付けなども共に行っている。唯一の男性利用者也、食器洗いを自分の仕事として毎日毎食後行ってお下さっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は利用者一人一人の嗜好物を把握しており、好きなときに楽しめるよう支援している。たばこについてはホームで預かっており、全館禁煙であるが、本人の希望されたときに散歩を兼ねて公園などにお連れして吸って頂いている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人一人のサインを職員が把握し、さりげない誘導、支援を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む利用者には言葉掛け、対応の工夫などをして支援しているが、無理強いはいしないよう心がけている。汗をかいたり、排泄物で下が汚れてしまった場合などにはいつでもシャワー浴をしていただけるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。夜間、不眠の訴えがあったときには、暖かい飲み物などを差し上げ、落ち着くまで話を聞くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や得意分野を職員が把握し、一人一人の力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	金銭管理の出来る利用者には自由にお金を所持し たり、使えるように支援している。出来ない利用 者には、普段はホームで預かり、希望されるとき にお渡し出来るようにしている。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	日中、玄関に鍵はかけておらず、散歩や買い物な どに行きたいときに行けるよう支援している。外 食をしたい、デパートや大型スーパーマーケット に行きたいなどの希望があれば、出掛けるように している。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	「故郷に帰ってみたい」「居酒屋に皆で飲みに行 きたい」などの希望が出たときには、職員やご家 族とも検討して実現出来るよう支援している。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	家族や大切な人には、希望があればいつでも電話 出来るようにしている。また、手紙を書いた方と 共に郵便局へ行き、ポストへ投函するなどの支援 をしている。暑中見舞いや年賀状の季節には、職 員の方から「書いてみませんか」などの働きかけ も行っている。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。 毎日のように訪問して下さるご家族の方もいらっ しゃる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束はありえないことだが、ユニット会議な どで権利擁護や身体拘束などの知識を伝えること で、共有認識をはかっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はもちろん、玄関にも鍵はかけていない。夜間のみ玄関に施錠している。利用者が外出しようとされた場合は、さりげなく声をかけて御一緒させていただいたり、利用者によっては近所ならば、一人で自由に外出している方もいらっしゃる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員が見守り、夜間はすぐに対応出来るように居場所を工夫している。エレベーターを使用しての移動の為、職員の手薄の時には、動きを確認するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく、状況変化に応じ注意を促している。包丁などは夜間のみ、利用者の手の届かない場所に移動するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	気付いたことがあればすぐにヒヤリハット報告書を作成し、職員全員が共有出来るようにしている。もし事故が起こってしまったときの為にリスクマネジメントもしっかりと行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の対応マニュアルの周知徹底を図っている。	○	急変や事故に遭遇したときに落ち着いた対応が出来るように、応急手当の研修を受けたり、初期対応の訓練を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域運営推進会議で地域の防災体制について、民生委員の方などからお話を聞く機会があり、地域の消防団に協力を要請する予定である。また、年2回防災訓練を行ったり、防災会議を開いて、昼夜を問わず利用者が避難できる方法について模索している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人がその人らしく生活出来ることを第一に考え、それに伴って起こり得るリスクについてリスクマネジメントを行い、ご家族とも相談し、納得していただくようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は常にアンテナを張り、普段と違う様子、変化が見られたら、バイタルチェックを行い、看護師に相談するようにしている。状況により医療機関の受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は把握しやすいように、健康管理ファイルに一括してファイルしており、いつでもチェック出来るようにしてある。処方箋に変更があった場合には申し送りを確実にし、全職員が把握出来るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や家事活動など体を動かす機械を設けて自然排便出来るように取り組んでいる。食物繊維を多く含む食材を摂っていただいたり、水分補給をしていただくよう声かけを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行っている。義歯は就寝前に必ず外し、ポリドントにつけるようにしている。全ての歯がご自分の歯である利用者が数人みえるので、維持していけるよう支援していきたい。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の栄養バランス、カロリー計算までは行っていないが、年に4回、提供している食事の写真を撮り、栄養士にカロリー計算を依頼している。毎回バランス良好との結果が出ている。水分は出来るだけ多く摂っていただくよう心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する対応マニュアルを設置して、職員に対し周知をはかっている。また、利用者及びご家族に同意を頂き、職員共に毎年インフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水周りの清潔、衛生を保つように取り決めて実行している。まな板、布巾などは毎日ハイターなどで消毒をするようにしている。食材は正しい管理方法で保存し、賞味期限を必ず守るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、プランターを置いたりしている。建物の構造上、玄関口が大変狭く目立たないが、来訪者、利用者の出入り時、安全であるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広くはないが、それがかえって家庭的な雰囲気を醸し出しており、使いやすさ、居心地の良さに繋がっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースは狭いが、ソファを置いたりしてそれぞれがくつろげるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	好みのものや馴染みのものを置くことで、居心地 の良さに配慮している。神棚や仏壇、マッサージ チェア、コンポなどを持ち込んでみえる方もい らっしゃる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居間は定期的に換気を行うようにしている。各居 室の冷暖房に関しては利用者別に細かく調節して いる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりなどは検討を重ねて、必要と思われる場所 に配備出来ているが、段差などがあり、バリアフ リーとはいえない状況である。	○	段差など住環境の更なる見直しを図り、安全確保 と自立への配慮を行う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」を追求 し、状況に合わせて環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダにて花を育てたり、日なたぼっこなど出 来るようにベンチを設置したりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ 大いに増えている ☐ 少しずつ増えている ☐ あまり増えていない ☐ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	☐ ほぼ全ての職員が ☐ 職員の2/3くらいが ☐ 職員の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての家族等が ☐ 家族等の2/3くらいが ☐ 家族等の1/3くらいが ☐ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

商店街に立地していることを生かし、地域の人達とごく自然に交流を持ち、地域に溶け込むことが出来ている。地域の人達はこのグループホームのことを理解してくれている。